

## 1日も早い西九州自動車道の完成を！

福岡、佐賀、長崎の3県を結ぶ西九州自動車道の早期整備を求める西九州自動車道建設促進総決起大会が7月19日、文化会館で開催されました。

この日は、金子県知事や古川佐賀県知事をはじめ、国会議員、沿線自治体の住民など約800人が参加。3県知事などが同自動車道への期待や熱意をアピールし、各県から3人が沿線住民代表として意見発表を行いました。長崎県の沿線住民代表としては、上志佐体験型振興会副会長の末吉富美子さんが、「西九州自動車道が完成することによって、体験型旅行はもっと充実したものになり、さらなる交流人口拡大につながります。また都会を身近にしてくれる西九州自動車道の1日も早い完成を願っています」と同自動車道の必要性を訴えました。



## 小学生が楽しく英語を学ぶ 第10回「1日インターナショナル・スクール」

市内の小学生を対象とした「1日インターナショナル・スクール」が、7月23日、きらきら21で開催されました。

松浦市国際親善協会が、小学生に外国の言葉と文化に触れる機会を与えることを目的に毎年開催しています。

この日は、市内の小学生約70人が参加。市内に赴任しているALT4人が講師を務めました。

スクールでは、ゲーム方式で自己紹介をした後、国旗を用いて国の名前を学んだり、ダンスをしたりして楽しく英語を学びました。



## ネーミングのポイントを学ぶ

地域活性化と雇用の創出を進めている「平戸・松浦地区観光人材育成プロジェクト」のネーミングアドバイスセミナーが7月16日、きらきら21で開催されました。

これまで商品開発の知識を学んできた事業者などを中心に、自社商品の価値を最大限に表現できる方法を学んでもらおうと企画されたものです。

この日は、市内の事業者など約20人が参加し、インダストリアルデザイナーの能登左知さん（東京都）が「商品名・キャッチコピー・説明文はセットでデザイン」と題して講義。参加者は企画中の商品を例に取りながらネーミング方法の基礎を学び、ネーミングの重要性を再認識していました。

# まちの話題



## 中国から雑技団がやってきた — 雑技の祭典 —

文化会館の自主事業「雑技の祭典」が8月17日、文化会館ゆめホールで公演されました。

3年前に行われた中国雑技団特別公演が好評だったことと中国の伝統文化に触れてもらおうと公演されたもの。舞台上で繰り広げられる人間の体力、気力、精神力の限界に挑戦する雑技団の磨きぬかれた技に、この日詰め掛けた約310人の観客からは、ため息が漏れていました。

また、市民の舞台への飛び入り参加もあって、子どもたちはもちろん、大人たちにとっても思い出に残る夏の1日になったようです。



## 市民病院再建築を市長に答申

松浦市病院・診療所あり方検討委員会（菊森淳文委員長）は7月31日、市民病院再建築などを示した答申書を友広市長に提出しました。

同委員会は、行政・医療機関・市民などから選出された委員8人で構成。市が運営する病院・診療所の役割、機能、規模、経営形態などの今後のあり方を検討し、専門的な見地から提言することを目的に平成20年4月に設置されました。これまで7回の会議を開催し、多角的な見地から検討を行ってきました。

菊森委員長は「佐世保市などで高度医療を受けた患者を地域で受け入れるリハビリテーション科の開設、人工透析の存続や医療スタッフの充実などによる市民サービスの向上。経営面でも地方公営企業法の全部適用への変更や経費削減などを行うことによって経営の安定化を図り、信頼される公立病院として地域医療を守ってください」と話しました。

## 鷹島肥前大橋つながる

鷹島町と佐賀県唐津市肥前町を結ぶために建設中の鷹島肥前大橋（仮称）で7月23日、最後の橋げたが取り付けられ一つにつながりました。

同大橋は、長さ1,251㍍で、高さ100㍍の2本の主塔からケーブルで橋げたをつり下げる斜張橋。2本の主塔間は400㍍で、斜張橋としては長崎市の女神大橋に次いで九州で2番目の長さとなります。

工事は、長崎県と佐賀県が共同事業として、総事業費約200億円を投じて1997年に着工。この日は、長さ22㍍、重さ110トンの最後の橋げたを台船で運び、2



基のクレーンを使って約3時間かけてつり上げ、片側の溶接を行いました。1週間ほどかけて調整を行い、接続工事が完了し、来年3月末に開通予定です。

また、海上からは鷹島小、中学校の子どもや保護者など約90人がフェリーで見学しました。

